

トヨタ鞍ヶ池記念館：展示

トヨタ鞍ヶ池記念館は、日本の自動車産業の歴史の中で重要な章をテーマにした展示を行っている。ここでは、豊田喜一郎（1894-1952）の生涯と、彼が設立したトヨタ自動車の誕生に焦点を当てている。

喜一郎の父・豊田佐吉（1867-1930）は、1896 年に豊田式汽力織機を発明した。また、1925 年には息子とともに、日本初の全自動織機である「豊田 G 型自動織機」を設計した。ホールには両機の実物が展示されている。佐吉は、この G 型自動織機の特許を英国の会社に売却し、その代金の一部を喜一郎が使って自動車の開発に着手させたと言われている。メイン展示室では、喜一郎がトヨタ自動車を設立するまでと設立後に直面した課題を 15 分ほどの動画にまとめている。

1933 年のシボレー車の解体や、1935 年の A1 試作車の公開テストなど、トヨタの歴史の節目となる場面が、音声や効果音付きの緻密なジオラマで表現されている。また、1930 年代、1940 年代に活躍した自動車やトラックの 5 分の 1 の模型や、トヨタ自動車の最初の工場の詳細な模型も展示されている。挙母工場（現・トヨタ本社工場）は、1938 年に現在の豊田市に開設された日本初の本格的な自動車工場である。社宅や病院、学校など、時代に先駆けた設備を備え、日本の自動車産業の中心地となった。

部屋の中央には、同社の代表的な車が 2 台展示されている。1936 年の AA 型セダンは、A1 型プロトタイプから発展したトヨタ初の乗用車だ。電気系統の部品は残っていないが、ショールームで見られるオリジナルの状態である。AA 型の向かい側には、トヨペット・クラウン RS 型が置かれている。1955 年に発売されたこの車は、初めて完全に日本で作られた車であり、トヨタが初めてアメリカに輸出した車でもあり、今でもトヨタの代表的なモデルのひとつだ。

メイン展示室の外には、鞍ヶ池アートサロンがある。この小さなアートギャラリーでは、平山郁夫（1930-2009）やクロード・モネ（1840-1926）などの国内外のアーティストの作品を含む、トヨタが所有する絵画を季節ごとに交代で展示している。